

On the Common Colloquial of "HITACHIOBI"

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/20482

俳書「常陸帯」の詞寄の語彙について

— 近世語研究 (その四) —

深井一郎
* 古保勲

(石川県立金沢錦丘高校教諭)

はじめに

近世前期の俳諧関係書の一つである「常陸帯」について『俳諧大辞典』(明治書院)は次の如く解説している。

「俳諧撰集・辞書。半一。清客堂児水編。重徳序。元禄四年^{一六九一}刊。

京、中村孫兵衛版。京の宝樹軒児水が、貞徳・方山・言水・我黒・梅盛・信徳・春澄・団水等、主として京の古風俳人の四季発句を集め、林鴻・児水らの歌仙や児水自らの独吟を添える。なお、巻末に振仮名つきの特殊語彙を類別して多く掲げているのは、元禄語彙の資料として甚だ有益である。」(以上ひたち帯の項)

『国書総目録』によれば、写本として京大 頼原文庫、天理大 綿屋文庫(版本写)、版本として、学習院大 殿田文庫とある。頼原文庫・綿屋文庫のものは、何れも有竹堂文庫旧蔵の版本の写しである。

今回の索引づくりには底本として

有竹堂文庫(故殿田良作氏旧蔵)が井波町立図書館に寄託されていた当時にコピーしたものをを用いた。

巻末の詞寄は語彙数約一千語の「世話字」を十五丁表から二十九丁裏まで登載している。半葉九行四段からなり、十三部門に分

かれている。

神祇 36語 佛 17語 人部 198語 時分 91語 草木 73語

鳥獸 26語 魚部 18語 虫部 27語 食部 43語 衣裳 48語

居室 23語 器財 121語 言語 276語 計 997語

その他欄外・綴込・語間・行間・行末に書き込みがあり、墨書と朱書に分けることができる。

A 墨書

○第一グループ 8語 本文と比べるとやや小さく楷書体。(出扱の丁数をアラビア数字で、その表・裏の別を「オ」「ウ」で示した。以下同じ)

神祇 (15オ上欄) 佐保姫 振仮名なし。細字の注釈あり。

時分 (18ウ上欄) 大文字火 振仮名なし。細字の注釈あり。

草木 (20ウ上欄) 五加木 蒼葱 馬酔木

鳥獸 (21オ上欄) 鶺鴒 細字の注釈あり。

魚部 (21ウ上欄) 俵子 田造 細字の注釈あり。

○第二グループ 16ウから17ウまで、本文の縦行に併せて、二段に分けて少し大きめに楷書で書かれている。合計37語ある。内訳は

人部 (16ウ上欄) に17語 (17オ上欄) に18語 (17ウ上欄) に2語

杓掬には右側にコウテツ、左側にウコカシヒネルの振仮名がある。37語のうち、人部と思われる語句は、親炙^{オカシ} 鑿賞^{メキキ}の2語であり、多くは言語部門と思われる語句がほとんどである。

中には 現存^{ゲンゾン} 流麗^{リウレイ} 執拗^{シツアウ} 模範^{モパン} 緑由^{リョウユ} 鍛錬^{タンレン} 索引^{ソウイン} 捷徑^{テツテイ} 汗牛^{アツウ} 屈指^{クシ} 約略^{ヤクラク} など世話字として特徴のある熟字訓が見られる。

○第三グループ 本文よりやや大きめ、合計24語

時分 (19ウ綴込)

草木 (20オ上欄)

言語 (25ウ綴込)

(26ウ行末)

(27ウ綴込)

(28ウ綴込)

(29ウ綴込)

その他

(24ウ下段)

(25オ上欄)

竹盆^{タケバシ}

杠雲^{カウウン} の2語が出てくる。

B朱書

23オ 上句終から 29ウ 唛^{ツソノカス} まで168語が上欄・行中・語間・

下段・綴込とあらゆるところに書き込まれている。

詞寄せの索引について

常陸帯の「態字」約一千語について五十音順の索引を作成し、他の諸本との比較をするために次の参考文献を使用した。

○節用集 『五本対照改編節用集』

亀井 孝編 勉誠社 (略称 五本対照)

○書言字考 『増補合類大節用集』

明和三年再版 (略称 書言字考)

○下学集 『古本下学集七種研究並びに総合索引』

中田祝夫 林義雄著 風間書房

○雑字類編 『雑字類編』 影印 研究 索引 (略称 下学集)

明和六年刊 東讀柴先生著述 ひたく書房

索引製作上の留意点は次の通りである。

① 語句の形を表音の仮名で表記した見出し(五十音順に排列)を付け、その下に原本の表記を掲示した。(ただし「エ」は「エ」に「子」は「ネ」に改める。)

現代かなづかいでは「おう」「おお」と表記する重母音「アウ」「アフ」「オホ」「ヲフ」「ヲホ」「ヲ、」「ワウ」は発音の如何にかかわらず「オー」として排列した。

② 原則として、原本の字体に従って正字・俗字・異体字をそのまま採用したが、ごく慣用的な俗字や些細な相違のみの場合には、現在通用の字体を採用した。

③ 原本の漢字が誤っていたり、その疑いがある場合、もしくは異体であるために他の字と混同する恐れのある場合には右脇又は下にへゝを入れて正しいと思われる字を掲げた。

④ 同一語で、読みの仮名づかいが一致する場合には用字が異なっても仮名見出しを一つにとどめた。

⑤ 原本に二種以上の振仮名がある場合は漢字の右側の振仮名を主とする習慣を認めて、右側の振仮名だけを採る。左側の振仮名については参照項目をつけた。

〔例〕 償 (言27ウ) 鈴 (言27ウ) 鈴 (言27ウ) (仏15ウ)

「アタイ」から「ワキタムル」へ参照項目

「レイ」から「リン」へ参照項目

⑥ 原本に連語を一項目にしている場合は連語の形をそのまま本書の一項目にした。

〔例〕

衆画譜倫 (人16ウ上欄・墨書)

また必要に応じて参照項目をつけた。

エホン↓アマタルエホントクヒ

本来は、この索引が主たる仕事であったが、今回の論文では、スペースの関係から、その一部を掲げるとどめ、索引作製の過程で考えられたいくつかの問題点について、以下述べることにする。

〔論文巻末にアの部のサンプルを掲げる。〕

常陸帯と関係あると考えられる諸種の辞書との比較について

A 『常陸帯』と『五本対照改編節用集』との語句の一致

(一) は節用集諸本の略号、門名を記す。

黒本 黒本節用集、伊京 伊京集、天正 天正十八年節用集

饅頭屋 饅頭屋本節用集、易林 易林本節用集

なお (一) の中の一線以下は次の如く門の略称である。

天 天地・乾坤 (易林) 時 時節・時候 (天正・易林) 木
草木 人 人倫 官 官名 名 人名 体 支体 生 畜類・
氣形 (易林) 財 財宝・器財 衣食 食物・衣服 数 数量 言
言語・言語進退 (伊京・天正) 言辞 (易林) 神 神祇 (易林)
字 名字 (易林)

○印は『書言字考節用集』とも一致していることをあらわす。

神祇 (常陸帯15オ)

5 語のうち3語は「書言字考」と同じ

○佐保姫 (易林一人 振仮名サホヒメ)

○現人神 (饅頭屋一人) ○神田 (易林一人)

御穀 (饅頭屋一食、易林一財)

昨 (黒本・饅頭屋一食 振仮名ヒモロキ) (以上15オ)

仏 (15ウ)

8 語ともに「書言字考」と重複。

○一切衆生 (易林一言)

○什物 (黒本・伊京・天正・饅頭屋・易林一財)

○交割 (黒本・饅頭屋一財)

○門派 (黒本・伊京・天正・饅頭屋・易林一人易林一言)

○看坊 (饅頭屋一言、易林一人)

○逮夜 (黒本・伊京・天正・饅頭屋一時)

○鈴 (黒本・伊京・天正・饅頭屋・易林一財)

○磬 (黒本・天正・饅頭屋・易林一財) (以上15ウ)

人部 (16オから18ウ)

26 語のうち17語「書言字考」と重複。

○痾 (易林一人) ○水破 (黒本・饅頭屋一人) (以上16オ)

○強者 (黒本・伊京・天正・饅頭屋・易林一人) (以上16ウ)

○御料人 (黒本・伊京・天正・饅頭屋一人)

渡酌 (饅頭屋一人) (以上17オ) ○膝行 (易林一人)

○蟄居(易林一言 振仮名チツキヨ)
○秃(易林一人) 甘辛(黒本一言 振仮名アマヘテ)(以上17ウ)

○半面(易林一言)
○暗向(黒本・伊京・天正・饅頭屋一言、易林一人)

○口号(黒本・天正・饅頭屋・易林一言)

○面煩(黒本一言、振仮名ヲモハユキ)

○千思(天正一体)(以上18オ) 嘖然(黒本一言)

○呻吟(伊京一言) ○詔(饅頭屋一体)

○天命(易林一言) ○右筆(黒本一言)

○友(天正・易林・饅頭屋一人) ○朋(天正・易林一人)(以上18ウ)

時分(18ウから20オ)
11語のうち6語「書言字考」と重複。

○少見(饅頭屋一言)(18ウ) ○白雨(易林一天)

○影(黒本・天正・易林一天)(以上19オ)

○御宇(天正一天 振仮名アメガシタ)

○新賀子(黒本・伊京・天正一天)

○澤(饅頭屋・易林一言) 空閑地(伊京・天正・饅頭屋一天)(以上19ウ) ○東来西来(饅頭屋一言) ○年贄(黒本・饅頭屋一時)

○世(黒本・天正・饅頭屋一時、易林一言)
○代(黒本・天正・饅頭屋一時、易林一言)(以上20オ)
○草木(20オから21オ)
11語のうち6語「書言字考」と重複。
○杠(伊京・易林一人) ○齒朶(黒本・伊京・天正・饅頭屋・易林一人)

○五加木(饅頭屋一人) ○蕪(天正・饅頭屋・易林一人)(以上20オ)

○馬酔木(伊京・天正一人) ○馬酔木(黒本・伊京・天正・饅頭屋一人)

○黒本・伊京・饅頭屋一人 天正・易林一人アセボノキ

○柏模(黒本・伊京・天正・饅頭屋・易林一人) 檜柵(易林一人)

○刺(黒本・饅頭屋一人)(以上20ウ) ○洗(黒本・伊京・天正・饅頭屋・易林一言)(21オ)

○鳥獸(21オ・21ウ)

4語とも「書言字考」と重複。

○鶴鵑(易林一生) ○囹(黒本・伊京・天正・饅頭屋一生)(以上21オ) ○笔(易林一言)

○鷓(易林一財)(以上21ウ)

○魚部(21ウ)

2語のうち1語だけ「書言字考」と重複。

○鮓(易林一生) 纒(易林一財)(21ウ)

○虫部(22オ)

○集(易林一言)(22オ)

4語のうち2語「書言字考」と重複。
○酒直(易林一食服) 卑隋涙(天正・饅頭屋一言) ○饑(易林一食服)
○雜餉(黒本・伊京・天正・饅頭屋一食)
衣裳(23オ・23ウ)
5語とも「書言字考」と重複。
○襦(天正・易林一衣食)(以上23オ) ○絞(易林一食服)
○箴(伊京・天正・易林一財)
○卷子(易林一食服) ○憲法(黒本・伊京・天正・饅頭屋・易林一言)(以上23ウ)
器財(24オから25ウ)
20語のうち11語が「書言字考」と重複。
○鹿目(黒本・伊京・天正・饅頭屋一財)(24オ)
○独楽(黒本・伊京・天正・饅頭屋一財)

- 櫓桶(黒本・天正一財) ○虎落(黒本・易林一財) ○碁箭(易林一財)
- 質(黒本・易林一財) 鍼(黒本・伊京・饅頭屋一財) ○心(黒本・伊京・天正・饅頭屋・易林一財) 鍬泥(易林一財)
- 鈔(伊京・天正一財 易林は鉛)(以上 24ウ)
- 薫草(黒本・易林一財 伊京・天正・饅頭屋は薫草) ○水囊(黒本・天正・饅頭屋・易林一財) ○篋(天正・易林一財)
- 籬(易林一財) ○縷(黒本・饅頭屋・易林一財) 杵(伊京一財) 潼(易林一財)(以上 25オ)
- 屈輪(易林一財) 恰好(黒本・天正・饅頭屋一財) 短籍(黒本・伊京一財)(以上 25ウ)
- 言語(25ウから 29ウ)
- 31語のうち 24語が「書言字考」と重複。
- 小(黒本・天正一財)(25ウ) ○任他(黒本・饅頭屋・易林一財) ○白地(黒本・伊京・天正・饅頭屋・易林一財)
- 満遍(黒本・伊京・天正・饅頭屋一財)
- 耗(易林一財) ○折(易林一財)(以上 26オ) 花奢(伊京・天正・饅頭屋・易林一財)
- 問(饅頭屋一財) ○習気(黒本・天正・易林一財) 天窓(易林一財)(以上 26ウ)
- 牛角(黒本・伊京・天正・饅頭屋一財)
- 偏旁(天正一財) ○浮雲(易林一財) ○懸隔(黒本・伊京・天正・饅頭屋・易林一財) ○扱(黒本一財) 利(黒本・饅頭屋一財)(以上 27オ) ○得意(饅頭屋・易林一財) ○平懐(天正・饅頭屋一財)
- 彪彪(黒本一財) ○可咲(黒本・易林一財) ○治定(易林一財)(以上 27ウ) 望姓(饅頭屋・易林一財) 質(易林一財)
- 桃尻(易林一財) ○巨多(伊京・易林一財)
- 驚破(天正一財)(以上 28ウ)

- 龜抹(黒本・伊京・天正・饅頭屋・易林一財) ○全輪敷(易林一財)
- 共恵行(饅頭屋一財)(以上 29オ) ○餘波(黒本・伊京・易林一財)
- 按排(黒本・伊京・天正一財)(以上 29ウ)
- 以上常陸帯と五本対照の重複を見てきたが、部門としては、仏・草木・鳥獸・衣裳の部が多く、時分、草木、魚部では和語が数多く見受けられるのが特徴的である。
- B 『常陸帯』と『書言字考節用集』の語句が同じもの
- 「書言字考」の部門の略号
- 乾||乾坤 時||時候 神||神祇 官||官位 人||人倫 肢||肢
- 体 氣||気形 生||生植 服||服食 器||器財 言||言辭 数||数量 姓||姓氏
- 常陸帯と同じ部門のときは部門名省略
- 神祇
- 五本対照(以下前出)と重複 3語に 5語重複計 8語同じ
- 地神 地祇 瑞籬(以上 19オ) 荒和 後宴(時)(15ウ)
- 仏部
- 前出 8語に 2語重複 計 10語同じ
- 仏法東漸(神) 葬頭川(乾)(以上 15ウ)
- 人部
- 前出 17語に 28語重複 計 45語同じ
- 恍惚 押柄者 魅(言) 季(書言は季子) 噴鼻(肢)(以上 16オ) 阿房(言) 舛 売女 渉人 剽軽(言)(以上 16ウ)
- 五調者(言) 左右(以上 17オ) 牙婆 短項(肢) 尻脚 石女(書言の振仮名ムマズメ) 平生(時) 頼(言) 母(言)(以上 17ウ) 哺(言) 延命(時) 支頤(肢) 兀(言) 咲面(肢)(以上 18オ) 煩(肢) 交睫(言) 瘰(肢) 振仮名ハミカヘ

ス) 絶入(時)(以上18ウ)

舩(セガレ) 魅(バカス) 延命(ユラクタマノヲ) 平生(ワカカリシトキ) の和訓に注目したい。

時分「書言字考」では時候

前出6語に22語重複・計28語同じ

朝和 夕和 且未(以上18ウ) 果杏 月中 上日・初吉 日英 負暄 天弓(乾) 麗(以上19オ) 野七里山七里(言) 岬(乾) 轟地(乾) 濟(言) 震動雷電(乾) 道程(乾) 曇々陰(言) 和波(乾) (以上19ウ) 南風北風(言) 右往左往(言) (以上20オ)

野七里山七里(ノクレヤマクレ) 電動雷電(シタラデン) 南風北風(カケツカヘシツ) 右往左往(ヒラリシヤラリ) の六字句・四字句に注目したい。

草木「書言字考」では生植

前出6語に23語重複 計29語同じ

羊角瓜 鳳尾草 玉蜀黍 番椒 蕈菌(以上20オ) 蒼葱 糸瓜 西瓜 陸英 仏耳草 胡蘿蔔 十回松 病葉 樸 氣條(以上20ウ) 椶櫚 松毬 花欄 長間竹 百葉竹 越王竹 千歳桑 (以上21オ)

鳥獸

前出2語に7語重複 計9語同じ

鷓鴣(氣) 矮鷄(氣) 鷄(氣) (以上21オ) 沙鳴(言) 蹄(器) 矮狗(氣) 逸散(氣) (以上21ウ)

魚部「書言字考」では気形

前出1語に8語重複 計9語同じ

俵子 年魚 鱈 魚虎 青前魚 鮭 池御(乾) (以上21ウ) 虫部「書言字考」では気形

前出1語に9語重複 計10語同じ
子 蝸 蝸 蝸 蝸 金龜子 蛞蝓 天 鷄 壁錢 螺 蛸 月鈴児(以上22オ)

食部「書言字考」では服食

前出2語に8語重複 計10語同じ

提盒(器) 飯団餅 清汁々 蒲挺 殮飯 小供御 焦飯(以上22ウ) 炊湯(23オ)

衣裳「書言字考」では服食

前出5語に12語重複 計17語同じ

昌披(言) 禪襦(振仮名フトシ) (以上23オ) 光綾子 絁糸 杼 綜(器) 績桶(器) 碾茶 媚茶 愚乱々々 千齋茶 (以上23ウ)

これらの語句のうち、碾茶(トノチヤ) 媚茶(コビチヤ) 千齋茶(センサイチヤ) は色彩をあらわす。

居室「書言字考」では乾坤

重複語5
草亭 磐石 行馬 壁帶 寸莎(器) (以上24オ)

器財

前出11語に28語重複 計39語同じ

拈 幹 大古舟 天平 瓜杖 鼻擗(振仮名ハナネジリ) (以上24オ) 空鐘 陀螺 八道(言) 筑子 拍板 竹瓮 畚 月谷(服食) 振仮名ワチガヘ) 啜物作(以上24ウ) 羅合 筭 空子 雪踏 鬚 薑擦(以上25オ) 硝子 十切 蒲簀 釐等 枅 裁板 鷹 猪口(以上25ウ)

言語

前出24語に69語が重複 計93語同じ

態 記念(以上25ウ) 下配 依倚 声花 養 取次筋斗 苛々 勳レカ(以上26オ) 一 不平 影護 月 搜(振仮名サグル) 叱序 風愛 礪 啖 (以上26ウ) 目論 吉

程^{チヨウ} 奔^{ハシ} 區^ク 行^{コウ} 域^{キョク} 閣^{カク} 思^シ 君^{クニ} 風^{フウ} 流^{リウ} 弥^イ 生^{セウ} (以上 27 オ)
 適^{テキ} 不^フ 落^{ラク} 許^コ 動^{ドウ} 墮^ダ 々^々 嗚^{メイ} 々^々 遯^{ソウ} 々^々 左^サ 礼^{レイ} 新^{シン} 好^{コウ} 突^ツ 鼻^ビ 不^フ 意^イ
 延^{エン} 引^{イン} 衆^{シュウ} 諸^{シュ} 急^{キツ} 事^ジ 不^フ 屯^{トン} (以上 27 ウ)
 群^{グン} 連^{レン} 反^{ハン} 八^{ハチ} 裁^{サイ} 配^{ハイ} 刻^{コク} 齷^{ソウ} 齷^{ソウ} 發^{ハツ} 屈^{クツ} 理^リ (以上 28 オ)
 遲^チ 微^イ 々^々 退^{タイ} 讓^{ジヤウ} 乞^キ (退^{タイ} 讓^{ジヤウ} 立^{リツ}) 虚^{キョ} 勞^{ロウ} 々^々 奪^{ダツ} 取^ク 勝^{シヨウ} 塗^ト 炭^{タン} 孤^コ
 尾^ビ 々^々 (以上 28 ウ) 替^{ハキ} 錢^{セン} (器^キ) 不^フ 凡^{ハン} 事^ジ 徐^{シュ} 々^々 虚^{キョ} 勞^{ロウ} 々^々 浮^フ
 和^ワ 々^々 動^{ドウ} 下^カ 々^々 (振^シ 仮^カ 名^{メイ} トカドカ) 瓦^カ 墮^ダ 々^々 (以上 29 オ) 片^{ヘン} 乱^{ラン}
 々^々 如^ニ 龜^キ 々^々 如^ニ 鷺^ソ 々^々 宿^{シュク} 腐^フ (服^{フク} 食^{シキ}) 御^ミ 手^テ 洗^{セン} (以上 29 ウ)
 擬^ニ 聲^{セイ} 語^ゴ・擬^ニ 態^{タイ} 語^ゴ などの副^ソ 詞^ジ に特^{トク} 徴^{テイ} のある語^ゴ 句^ク が重^{ジュウ} 複^{フク} し、四^シ 字^ジ 句^ク の疊^{ダイ} 語^ゴ が見^ミ 受^{ウケ} けられる。

C 『常陸帯』と『下学集』の語句が同じもの

『古本下学集七種研究並びに総合索引』を使用略号として次のように表わした。

教||東京教育大学蔵古本下学集

春||春林本下学集(国立国会図書館蔵)

十七||文明十七年本下学集(東京教育大学蔵)

前||前田家蔵古本下学集

十一||文明十一年本下学集(静嘉堂文库蔵)

榊||榊原本下学集(国立国会図書館蔵)

龜||龜田本下学集(国立国会図書館蔵)

◎印五本对照節用集と重なるもの。○印書言字考と重なるものをあらわしている。

神祇 2語

○瑞籬(十一) 弊(教・春・前・榊・龜)(以上 15 オ)

仏 2語

◎○鈴(教・春・十一・十七・十一―器財) ◎○磬(春・十

七・十一・龜―器財)(以上 15ウ)

人部 1語

◎○蟄居(教・春・十一・龜―態芸)(17ウ)(振仮名はともに

チツキヨ)

草木 6語

◎○杠(教・春・十七・前・十一・榊・龜) ◎○齒朶(春・

前・龜)(以上 20オ) ◎○五加木(前) ◎○馬酔木(前・龜・

教・十七・榊) ◎○氣條(教・前・十一・榊・龜)(以上 20ウ)

◎○洗(教・春・十七・前・十一・榊・龜―言辭)(21オ)

鳥獸 2語

◎○狩(教・春・十七・十一・榊・龜―態芸) 雪客(春―氣形)

(振仮名セツカク)(以上 21オ)

魚部・虫部・食部は重複する語なし

衣裳 3語

○杼(前―絹布) ○綜(前―絹布) 紺(榊―彩色)(以上 23

ウ)

居室部は重複する語なし

器財 3語

◎○兩辺(前―量字) ◎○鍼(春―氣形)(以上 24ウ) ◎○短

籍(前・榊・龜―器財 書言では短冊)(25ウ)

言語 5語

◎○白地(教・春・十七・前・十一・榊・龜) ◎○満遍(春・

龜―態芸)(以上 26オ) ◎○花奢(十一)(26ウ) ◎○懸隔(春・

榊・龜―態芸)(27オ) ◎○巨多(教・春・十七・前・榊・龜―量

字)(28ウ)

草木・衣裳に関する語句について重複がある。また漢語(花奢・磬・懸隔・巨多・短籍・蟄居・満遍・鈴・紺)が多いのも特色と言えるであろう。

D 『常陸帯』 『雑字類編』 の語句が同じもの

十八門の略号として次のように使用した。

- 天 天 地 地理 時 時令 宮 宮室
- 品 人品 家 家倫 官 官職 身 身体
- 神 神仏 器 器用 衣 衣服 飲 飲食
- 文 文書 銭 銭穀 采 采色 事 人事
- 動 動物 植 植物

◎印は五本対照改編節用と「書言字考」ともに重複する語◎印は「書言字考」と重複している語句

仏部 3語

縛 (器) ◎什物 (器) ◎遠夜 (時) (以上15ウ)

人部 10語

◎涉人 (品) 五本対照は渡守 (16ウ) ○飛頭蛮 (身) 侏儒 (品) (以上17オ) 博徒 (品) 牙人 (品) ○牙婆 (振仮名スワイババ) ○短項 (身) 兎飲 (身) 石女 (品) (以上17ウ) ◎醫 (身) (18オ)

時分 7語

○上日 (五本対照は朔日) 旭日 (天) 五本対照・書言字考・下学集は旭) ○負暄 (事) 振仮名ヒナタボコリ 書言はヒナタボコ) 月暈 (天) ◎白雨 (天) 五本対照に夕立もある) (以上19オ) 氷箏 (天) ○道程 (地)

草木 「雑字類編」では植物門 7語

◎玉蜀黍 ○番椒 (以上20オ) ◎馬酔木 (下学集にも) ○糸瓜 ○西瓜 (以上20ウ) ○橙 ○花欄 (以上21オ)

鳥獸 「雑字類編」では動物門 1語

○矮鶏 (21オ)

虫部 「雑字類編」では動物門 8語

火蛾 ○金龜虫 ○蛭蟪 ○壁鏡 ○嚙蛸 ○跛虫 (書

言字考は跛母虫) 金鐘児 紙魚 (書言字考・雑字類編ともに衣魚) (以上22オ)

食部 「雑字類編」では飲食門 3語

○殮飯 (書言字考・雑字類編の振仮名ユツケメシ) (22ウ) 炊湯 石蜜 (振仮名コヲリザタウ) (以上23オ)

衣裳 3語

◎襦 (器) (23オ) ○袷 ◎箴 (器) (以上23ウ)

居宅 2語

石籠 (地) 書言字考は蛇籠) 桎梏 (宮) (以上24オ)

器財 9語

銃 ◎独楽 風箏 ○舂 (以上24ウ) 吹火筒 ◎綆 ○鬚 ○薑擦 (以上25オ) ○硝子 (25ウ)

◎記念 (器) (25ウ) ◎偏旁 (文) (27オ)

E 同音で用字の違うもの

常陸帯と諸本の間に同音異字が見られる。

◎常陸帯 (部門) ◎丁数 (節用集関係) の順に配列する。

青丹木手 (神15オ) 青弊 (黒本・伊京・饅頭屋 | 言 下学)

青和弊 (書言 | 神)

白丹木手 (神15オ) 白弊 (伊京 | 言 下学)

白和弊 (書言 | 神)

三界六道 (仏15ウ) 四迷地原 (饅頭屋 | 天 書言 | 乾)

黄面 (仏15ウ) 仏 (饅頭屋 | 人 易林 | 言 書言 | 神 下学)

處子 (人16オ) 息女 (易林・書言 | 人 下学集では女)

化 (人16オ) 面影 (黒本・伊京・天正 饅頭屋 | 体 易林 | 言 書言 | 肢)

佛 (書言 | 肢)

- 馬工郎 (人16ウ) 博勞 (黒本・天正・饅頭屋ト人 書言ト人)
 着色 (人16ウ) 上欄墨書 彩色 (天正・易林ト人 書言ト人)
 夜発 (人16ウ) 遊女 (易林ト人 書言ト人)
 正人 (人16ウ) 真人 (伊京・饅頭屋・易林・書言ト人)
 異者 (人16ウ) 勝者 (易林ト人 書言ト人)
 模範 (人17才) 上欄墨書 手本 (饅頭屋ト財 易林ト人 書言ト器)
 汗牛 (人17才) 上欄墨書 数多 (黒本・天正・饅頭屋・易林・書言ト人)
 女僧 (人17才) 比丘尼 (黒本・饅頭屋・易林・書言ト人)
 烏郎 (人17才) 小奴 (伊京・天正ト人 書言ト人)
 色弗 (人17ウ) 醜物 (書言ト肢)
 金吹 (時19才) 秋風 (易林ト天 書言ト乾)
 上日 (時19才) 朔日 (黒本・天正・饅頭屋・書言ト時)
 天弓 (時19才) 虹 (黒本・伊京・天正・饅頭屋・易林ト天 書言ト乾)
 十六日 (時19才) 十六夜 (黒本・天正・書言ト時)
 不二山 (時19ウ) 富士山 (伊京・天正・饅頭屋ト天 書言ト乾)
 四方八方 (時19ウ) 四極山 (易林ト人 書言ト乾)
 天靴 (時19ウ) 雷 (黒本・天正・饅頭屋・易林ト天 書言ト乾)
 栴核 (草20ウ) 李 (黒本・伊京・天正・饅頭屋ト木 書言ト生 下学)
 冬青 (草20ウ) 女貞 (易林ト木 書言ト生)
 胡梅 (草20ウ) 杏子 (黒本・伊京・天正・饅頭屋・易林ト木 書言ト生)
 頭利子 (草20ウ) 阿梨子 (天正ト生)
 花欄 (草21才) 果李 (饅頭屋・易林ト木)
 海翁 (鳥21才) 鷗 (黒本・饅頭屋ト生 書言ト気 下学集)
- 雪客 (鳥21才) 鷺 (黒本・天正・饅頭屋・易林ト生 書言ト気)
 匹鳥 (鳥21才) 家鴨 (饅頭屋ト鳥 書言ト気)
 銀魚 (魚21ウ) 鮎 (伊京・饅頭屋ト生 書言ト気)
 金鐘児 (虫22才) 鈴虫 (黒本・伊京・天正・饅頭屋・易林ト生)
 透許 (23才) 上・朱書 (清(書言ト人 書言ト人)
 綺羅豆 (食22ウ) 雪花菜 (書言ト服食)
 白青 (衣23ウ) 浅黄 (黒本ト人 饅頭屋ト財 下学集)
 迫戸 (居24才) 背戸 (黒本・伊京・天正・饅頭屋・易林ト天 書言ト乾 下学)
 王簪 (居24才) 擬法珠 (饅頭屋・易林ト財)
 筒笛 (器25ウ) 頭切 (伊京・天正ト財 書言ト器)
 竖笛 (器25ウ) 尺八 (黒本・伊京・天正・饅頭屋・易林ト財 書言ト器)
 替箱 (器25ウ) 懸子 (黒本・伊京ト財 下学集)
 記念 (言25ウ) 形見 (黒本・天正・饅頭屋・易林ト人 書言ト人)
 意浮 (言26才) 浮岩 (易林ト人 書言ト人)
 背後 (言26ウ) 上欄朱書 上左 (黒本・饅頭屋ト人 書言ト人)
 日者 (言27才) 日来 (黒本・伊京・天正・饅頭屋・易林ト時 書言ト時)
 風流 (言27才) 面白 (天正・饅頭屋・易林ト人 書言ト人)
 大僧 (言27ウ) 佐計 (天正ト人 書言ト人)
 可憎 (言27ウ) 生憎 (易林ト人 書言ト人)
 衆諸 (言27ウ) 左右 (伊京ト人 書言ト人 下学集)
 我任 (言27ウ) 下段朱書 自在 (黒本・伊京・天正・饅頭屋・易林ト人 書言ト人)

前日今日 (言28オ) 彼此 (黒本・天正・饅頭屋・易林一言 書言

一言)

推乱離 (言28オ) 直利 (書言一言)

私公 (言28ウ) 藜晴 (黒本・伊京・天正・易林一言)

仰々敷 (言28ウ) 嶮々敷 (書言一言)

F常陸帯のみの語句について

以上、常陸帯の諸本との比較を試みたが、A-Eのどの諸本とも重複しない、独自の語句が結果として258語(総語数の二割五分)残った。

これらの語句について近世前期の俳諧関係書の中で「世話字」を蒐集登載する四点(『続無名抄』『常陸帯』『反故集』『増補大和言葉』)のうち、最も早い時期の『続無名抄』(惟中著・延宝八年刊)巻下世話字尽との重複を調べた。『常陸帯』は『続無名抄』に比して十年後続の俳諧書であるが、世話字登載に当っては『続無名抄』を参考にしたと思われる語句が比較的多い。『続無名抄』の世話字尽599語に対して『常陸帯』と重複する語句は135語(約二割三分)となっている。

この135語のうち、A-Eの諸本に見られず、「常陸帯」のみの語句を部門別に上げると次の如くである。(総数94語)。

人部

存在者 心腹者 遮義理者 常式者 蓮葉 藤次(以上17オ)

肝憊 (17ウ) 喫類 (18オ) 滅多 (18ウ)

人部では「モノ」という語句が特色と言える。

時分

甚乱多 (19ウ)

草木

麦糠 (20ウ)

鳥獸・魚部・虫部

該当語句なし

食部

深更餅 綺羅豆 船場煎 膨煎 蕪物(以上22ウ) 馴入物(23

オ)

衣裳

仰山(23オ上・朱) 透許(23オ上・朱) 颯破理(23オ上・

朱) 御卑衣 帽紗(以上23オ) 盆帽裏(23ウ) 眼膜(23

ウ上・朱)

ヲヒエ麻で作った日本の着物(邦訳「日葡辞書」)

居室

釣張(24オ) (世話字尽は咬釣張)

器財

真鍮(24ウ)

言語

狭入(25ウ上・朱)

無屈理(以上28オ) 散配 微乱附 及曲輪 質曲輪 推乱離

為撥 発知 為愚 為窟 為突 詔理 邪氣乱 無理 遣度 怒

ケ間敷 目一時間 案酌果 何程 疎箒 搔倒 續酒 瓢

事 自言辞(以上28ウ) 反吸 胴膨 多集菟 夜鍋 吃合破

吸々云 和茶 背瘡摺 輜書 愛堪 赤手引 節樽立

恥美々 愛相敷 度切粉 重祭 惘然 吃口々々 續々々々 尾

地々々 雑分々々 瓦落々々(以上29オ) 憑虚々々 如狐々々

先練々々 行々為別(以上29ウ)

言語の部では特徴的なものとしては、及曲輪(キツクリ)質曲

輪(シツクリ)無屈理(ムツクリ)忽法理(コツホリ)愚弱理(グ

ニヤリ)等「と」を従えてはじめて連用修飾語となる副詞の擬態

語が見られることである。

更に擬態語の中でも、吃口々々(キクキク)尾地々々(ビニビ

チ) 雑分々々(ザブザブ) 等疊語になつてゐる語句が見られることである。

「常陸帯」だけの語句であるが「続無名抄」とは同音異字のもの

の

〈常陸帯〉

〈続無名抄〉

- 正人 (人 16 ウ)
- 籠太奴 (人 17 オ)
- 伏脹面 (人 17 オ)
- 手打 (人 18 オ)
- 茎 (草 20 ウ)
- 寒垢離 (24 ウ上・朱)
- 遅乱々々 (28 オ)
- 嚏斗斗 (言 28 ウ)
- 銀斗斗 (言 28 ウ)
- 土古 (言 28 ウ)
- 敏乍々々 (言 29 オ)
- 全人 (2 ウ)
- 籠太箭 (2 ウ)
- 仏頂面 (2 ウ)
- 打芋手 (3 ウ)
- 土基 (9 オ)
- 閑居理 (10 ウ)
- 散々々 (1 ウ)
- 嚏許 (1 オ)
- 銀許 (1 ウ)
- 何此 (6 ウ)
- 疾乍々々 (6 ウ)

同字で読みの違うもの (上段―常陸帯 下段―続無名抄)

這出 (人 17 オ―ハイデ 5 オ―ハイデル)

大魁人 (人 17 ウ―タイクハイナヒト 11 ウ―タイクハイナル)

色弗 (人 17 ウ―シコブチ 6 ウ―シコブツ)

雁陳擲 (言 28 ウ―ガンヂカラケ 1 オ―ガンヂカラメ)

(参考)「常陸帯」と「続無名抄」の世語字の重複語 135 語の中で、A―E の諸本との比較してみると重複する語が 41 語ある。これらの語句は世話字として定着していたと見てよいであろう。

〈部門〉〈常陸帯〉〈続無名抄〉〈A―E の諸本〉の順に記す。

人部

- 押柄者 (16 オ) (7 ウ) (書言)
- 交睫 (18 ウ) (1 オ) (書言)
- 絶入 (18 ウ) (8 ウ) (書言)

- 草木
- 藿菌 (20 オ) (9 ウ) (書言)
- 五加木 (20 ウ上・墨) (10 オ) (易林・書言)
- 洗 (21 オ) (10 ウ) (黒本・伊京・天正・饅頭屋・易林)

- 虫部
- 子子 (22 オ) (11 ウ) (書言)
- 跛虫 (22 オ) (11 ウ) (書言)

- 食部
- 清汁々 (22 ウ) (9 オ) (書言)
- 小供御 (22 ウ) (4 オ) (書言)
- 上句終 (23 オ上・朱) (3 ウ) (書言)

- 衣裳
- 砺茶 (23 ウ) (7 オ) (書言)
- 千齋茶 (23 ウ) (7 オ) (書言)
- 憲法 (23 ウ) (7 オ) (黒本・伊京・天正・饅頭屋・易林)

- 器財
- 愚乱々々 (23 ウ上・朱) (3 オ) (書言)
- 啜物作 (24 ウ) (8 ウ) (書言)
- 独楽 (24 ウ) (11 オ) (黒本・伊京・天正・饅頭屋・書言)
- 雪踏 (25 オ) (8 ウ) (書言)
- 人臆面 (25 オ上・朱) (2 ウ) (書言)

- 言語
- 懸隔 (25 ウ上・朱) (3 オ) (黒本・伊京・天正・書言)
- 怪 (27 オ) (2 オ) (黒本・伊京・天正・饅頭屋・易林)

柄者(同上) 頓瓢者(同上) 倭厄者(同上) と人の部門の——モ
 ノと読み仮名の付いた語句が多いこと。
 虚勞々々(言 29 オ) 雜乱々々(言 29 オ)
 如驚々々(言 29 ウ)

などの擬態語が多いのが特色である。以下、重出語 39 語を掲げる。

重出語(上—本文丁数 下—欄外丁数)

- 案酌果(言 28 ウ 23 オ) 適(言 27 ウ 言 27 オ) 異知(言 27
- オ 24 ウ) 居城(言 27 オ 26 オ) 不忍者(人 16 ウ 言 26 オ)
- 嘘著(人 16 オ 言 26 オ) 押柄者(人 16 オ 23 ウ) 放気者(人
- 16 ウ 言 27 オ) 虚勞々々(言 29 オ 言 28 ウ) 愚驚々々(言 29
- オ 言 29 ウ) 忽法理(言 28 ウ 23 ウ) 雜分々々(言 29 オ 23
- オ) 左落葉(言 27 ウ 言 27 オ) 白灰(器 25 オ 24 オ) 諱立
- (言 27 オ 言 26 オ) 進疾奴(人 16 ウ 言 27 オ) 迫付(言 27 オ
- 言 26 ウ) 唆(言 26 ウ 言 29 ウ) 倭女空(言 26 ウ 言 27 オ)
- 何者(人 16 オ 言 26 ウ) 一能々々(言 26 ウ 言 27 ウ) 哆々々(人
- 18 オ 言 26 オ) 胴膨(言 29 オ 言 25 ウ) 通欲(言 27 オ 言 25
- ウ) 十千種(言 27 ウ 言 26 ウ) 頓瓢者(人 16 ウ 言 27 オ) 如
- 驚々々(言 29 ウ 言 29 オ) 寢徒者(人 16 ウ 言 27 オ) 売女(人
- 16 ウ 言 26 ウ) 吠与々々(言 27 ウ 言 27 オ) 魁魁(言 27 ウ 言
- 25 ウ) 声花(言 26 オ 言 26 ウ) 圮定(言 27 オ 言 28 オ) 伏
- 脹面(人 17 オ 言 26 ウ) 下當(言 27 オ 言 26 オ) 少見(時 18
- ウ 言 28 ウ) 悶再(言 27 オ 言 27 ウ) 遣曲(言 27 オ 言 26 ウ)
- 倭厄者(人 16 オ 言 29 ウ)

注 1 「国語学辞典」(東京堂出版)世話字 世話文字とも。国字の一種でも
 ある。特に世話すなわち俗語・口語をうつすに用いられた新造のあて字
 や擬似漢字を言う。江戸時代中期以後の『節用集』などには、世話字を
 集成したものがあって、その時代の日常の筆記の中に正統の漢字なら
 ぬものが多く用いられた状況を思わせる。漢字の伝統的な字音・和訓を

利用することも多いが、又それらでは書き表わせない俗語・口語、特に
 擬声語・擬態語というべきもの、また副詞・感動詞などには新造の字も
 用いられ、その場合、会意の原理に基づくことが多い。
 注 2・注 3 近世文学資料類従 古俳諧編 47 解題
 注 4 邦訳「日葡辞書」岩波書店
 注 5 相坂一成氏蔵本(「江戸日本橋南一丁目」書肆寸原茂兵衛)の刊記あ
 り)に拠る。

(付記)この稿を成すにあたり、他の諸本との比較の作業について、音誠一
 氏の協力を得、また相坂一成氏には貴重な資料を拝借した。両氏に対しては感
 謝の意を表するものである。

(昭和五十九年九月十七日受理)

	常陸帯	部門	五本対照	書言字考	下学集	雑字類編
アゲクノハテ	アゲクノハテ 上旬終	23 オ (上欄朱)		アゲクノハテ 上旬終		
アケノタマガキ	アケノタマガキ 緋玉垣 赤キイガキノ 事也	神 15 オ		アケノタマガキ 朱瑞籬		
アコダ	アコダ 匙	草 20 ウ	アコダ 阿古陀瓜(饅頭屋)	(阿) 古陀瓜		
アサウリ	アサウリ 羊角瓜	草 20 オ (上欄墨)		アサウリ 同 羊角瓜・越瓜		アサウリ 越瓜
アサギ	アサギ 白 青	衣 23 ウ	アサギ 浅黄(黒本) 紺(天正) 浅黄(饅頭屋)	アサギ 浅黄色 同 青白色	アサギ 浅黄(春林) 浅黄(東教大・前 田・文明十一・榊 原・亀田・文明十 七)	アサギ 月日○浅 葱色
アサナギ	アサナギ 朝 和 朝ノジツカナ ル事	時 18 ウ		アサナギ 朝 和		
アサナユウナ	アサナユウナ 朝魚夕魚 朝夕ノ魚菜	食 22 ウ		(アサナユウナ) 朝 暮 アサナユウナ		
アサヒ	アサヒ 旭 日	時 19 オ	アサヒ 旭(黒本・伊京・ 天正・饅頭屋・易 林) 暎(黒本・伊京・ 天正・饅頭屋) 朝暎(易林)	アサヒ 同 同 旭・暎・朝陽	アサヒ 同 暎 旭 (東教大・春林・ 前田・文明十一・ 榊原・亀田)	アサヒ 旭日。朝 陽
アサマダキ	アサマダキ 朝 来 朝ノハヤキ事 且 未 同 上	時 18 ウ		アサマダキ 同 且未・朝速		
アジキナシ	アジキナシ 態 無端トモ	言 26 オ	アジキナシ 無端(天正・易 林) 無益(伊京・天 正) 無為(黒本・伊 京・天正・饅頭屋) 味気無(伊京)	アジキナシ 同 (無)状・(無)情 同 同 (無)為・(無)益 同 同 (無)端・(無)道 同 同 (無)月里・態	アジキナシ 無為・無端 (前田)	
アゼカエス	アゼカエス 反 暎	言 29 オ	アゼカエス 暎(黒本・伊京・ 天正・易林) 畔(黒本・伊京・ 天正) 阡(黒本) 畔(易林)	アゼカエス 畔		
アセボ	アセボ 馬酔木	草 20 ウ (上欄墨)	アセボ 馬酔木(黒本・伊 京・饅頭屋) 馬酔木(天正・易 林)	アセボ 馬酔木 アセボノキ	アセボ 馬酔木(前田・亀 田) 馬酔木(東教大・ 文明十七・榊原)	アセボノキ 馬酔木 アセボ
アセラカス	アセラカス 愛 堪	言 29 オ				
アタイ	アタイ 一ワキタムル	言 27 ウ				

	常陸帯	部門	五本対照	書言字考	下学集	雑字類編
アイソウランシク	愛相敷	言 29 オ		無・愛想		
アイダレ	愛垂 愛垂	人 16 オ 言 25 オ (上欄墨)		輝 蕨		
アイヤボロボロ	愛也母路々々	人 18 オ				
アオク	瞻 仰	人 16 ウ (上欄墨)	仰・翻 (天正) 俣 (饅頭屋)	仰 向		
アオニギテ	青丹木手 色々ノヘイ也	神 15 オ	青弊 (黒本・伊 京・饅頭屋) 青吊・青弊 (易 林)	青和弊	青弊 (春林) 青弊 (東教大・前 田・榊原・亀田) 青弊 (文明十一)	
アオブチジル	青淵汁 トロ、也	食 22 ウ	青淵 (易林)	(碧) 潭		
アカラサマ	白 地	言 26 オ	白地 (黒本・伊 京・天正・饅頭屋・ 易林) 偷閑 (黒本・伊京)	苟且・偷閑・暫・ 同 同 同 同 只暫・白地	白地 (東教大・春 林・前田・文明十 一・榊原・亀田) 白地 (文明十七)	
アキ	發發露霜	時 19 オ		露 霜		
アキカゼ	金 吹	時 19 オ	秋風 (易林)	秋風・冷風		
(アキ) サレ	秋茶	時 19 ウ				
アキシ	空間地	時 19 ウ	空間地 (伊京・天 正・饅頭屋) 轟地 (饅頭屋)	空 地		隙地○白 一○空一
アキナカ	八月十五日	言 28 ウ (巖込・墨)				
アキノモナカ	月 夕	時 19 オ				
アキル、	咳	言 26 ウ				
アギレル	贖 丁	言 26 オ (上欄米)				
ア ク	灰 衣洗	衣 23 ウ	灰汁 (饅頭屋) 灰汁煎洗 (易林)	浣水・(浣)		
アクガル	意 浮 思ノアマリタ ル事	言 26 オ	窟 (伊京) 窟・浮岩 (易林)	浮岩・狂浮・軻・ 同 同 同 同 同 同		
アクサクク	→チ・クル	言 28 オ				
アクビ	→クサメ	人 16 オ				
アグミハテル	案酌果	言 28 ウ		(案) 倦		
アグラ	胡 座 アケ足	人 18 ウ		胡床 絆跨・踞跪・寬座		胡床○交 一○繩 一